

## ～ 「アンケート、お世話になりました。」 ～

保護者の皆様におかれましては、校則に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。ご多用中にも関わらず、いろいろなお考え、思いを書き綴っていただきました。世間一般では、学校の常識は社会の非常識と言われていますが、鹿南中学校はそのようなことにならないように、これからの学校運営にぜひ活かしていきたいと思っております。麗気烈風第27号は校則、きまりについて私の考え、思いを書いていきたいと思っております。

一教師、一授業者として考えると、校則なんて全くなくなると随分気持ち的に楽になると思っております。仕事としてやるべきこ



とは授業の準備のみ。生徒は服装自由、髪型自由、登校時間自由、給食などやめて、好きなものを昼食に持ってくる。何でも自由。決まりはなし。

こうなると先生方は授業以外にエネルギーを割く必要がなくなり、生徒も楽しい学校生活を満喫することができる・・・のでしょうか。本当に。そんな楽しさは本物なのでしょうか。

大学生はこれで大丈夫です。精神的にも身体的にも成熟し、自分、自分のやるべきこと、自分の生きる方向をしっかりと持っているからです。大学生ではありませんが、元大阪市長の橋下徹氏は、「茶髪の弁護士」としてマスコミの脚光を浴び、それから著名人となっていきました。橋下氏の場合も別に茶髪になったからといって微動だにしない、確固たる自己の内面がつくられていたはずで

中学生は違います。どんな人生を歩み始めるのか、自分の未来像をいろいろな出会いや経験の中でつかみ取り、大人への第一歩を踏み出そうとする大切な時期です。精神的も身体的にも未成熟で、行動や環境が精神の成長に大きく影響し、また精神の状況が行動や環境に大きく影響を及ぼす時期です。言葉は人を創る。環境は人を創る。人が人を創る。その真っ只中にあると思っております。

教育基本法を持ち出すまでもなく、私達の仕事は次世代の日本社会を持続的に発展、維持していくことのできる人物の育成です。そしてその手段として、国語、社会・・・等の教科教育や特別活動の学習があるのです。

国語、社会、数学・・・よく言われるのが、こんな現実の社会では全く役に立たない、という話です。これに関しては、麗気烈風第23号で書きま

したので繰り返しません、学校での勉強を通して思考力、判断力、コミュニケーション力等、現代社会で生きていくために必要とされる力が育成されるのです。

先に書きましたように、国語、社会、・・・こうした教科の学習内容は非日常的なものです。家でのんびりくつろぎながら、あるいは友達とワイワイお菓子を食べながら理解できていくものではありません。成長途上にある子ども達に非日常的なものを理解させるためには、意図的に非日常的な環境を設定する必要があります

非日常的な環境とは、一人の教師が多数の生徒に対して学習内容を伝達する授業、その場所としての教室、学習者が同じスケジュールで動くための日課表、時間割、学習に集中できるきまりの設定等、さまざまな要素によってつくられる学校という環境のことです。

次のオリンピックからテレビゲームが「Eスポーツ」として正式競技になる、ということです。その選手達は家で楽しみながらゲームの練習をしているのでは決してなく、チームのユニフォームをつくり、腹筋、背筋等の筋トレを行い、規則正しい生活を送るために強化合宿を実施しているという記事を読みました。21世紀の未来型スポーツの選手でさえ20世紀型の集団行動、訓練を通して鍛錬しているのです。つまり、何にしても学ぶためには一定のきまりが不可欠なのです。

問題は、それがきまりのためのきまりであってはならぬ、ということです。また社会環境の変化も反映させていくことも忘れてはなりません。そうした視点、ご意見を今回のアンケートから参考にさせていただきます。

ただ、おそらく保護者が全員一致で「これでよし。」という校則改正にはならないと思っております。もっと緩く、あるいはもっと厳しくというご意見をお持ちになると思っております。

そうなった時は、またご意見を整理していただき、来年度の意見集約時にお願ひしたいと思います。

学校と保護者は車の両輪です。それは信頼関係という車軸で結ばれています。

「学校なんて」「先生なんて」と思われる瞬間があるかもしれませんが、その時はご遠慮なく連絡をいただき、よかったら職員と直接会って話していただきたいと思っております。私たちの思いはいつも一つです。子ども達に社会人としてどこに出しても恥ずかしくない常識、資質、態度、心情を培うことです。その願ひは保護者と同一であるはずで



